

伝承遊びを受け継ぐ取り組み

—けん玉に着目して—

仁藤喜久子[鶴川女子短期大学]

キーワード：伝承遊び スポーツ 保育者養成校

お正月に凧揚げやこま回し・けん玉をする文化は、子ども達の遊ぶ時間・空間・仲間（三間）の減少から、近年は保育所や幼稚園、小学校等の教育現場での学習となってきている。地域の祭りやイベントの一角では「伝承遊びコーナー」が設けられ、お年寄りが子ども達に教えている光景もみられる。近年、けん玉を夢中になって遊ぶ姿は、地域の神社や公園から、高校生や大学生などの若者が集まるストリートに変化し「スポーツけん玉」へとして欧米から逆輸入されてきている現状がある。けん玉は身体の高様な動きやバランス力を身につけることができる遊びである。さらに、技術の習得をする過程で集中力や手先の器用さの向上へと繋げられる。そのため、神経系の発達著しい幼児期から経験しておくといよい遊びである。そこで、保育者養成校で実施している伝統遊びの取り組みを報告する。科目名：幼児体育／内容：けん玉遊びを伝承する／方法：①けん玉に絵を描いてみる→②技術の習得練習→③技術発表会の実施。

「地方創生」とレジャーの課題

—地域活性化策の変遷をもとに—

須賀由紀子 [実践女子大学]

キーワード：地域活性化、内発的発展、レジャー

少子高齢化、人口減少社会の到来が目に見えて実感される時代となり、これからの社会への不安が強まるにつれ、健全なる成長をめざし、明るく元気な地域づくり—地方創生への議論が高まっている。この気運に、魅力あふれる暮らしづくりやまちづくりに向けて、レジャーの果たすべき役割と可能性について論考する。地域再生の問題は今日始まったわけではなく、これまでも、それぞれの時代の要請を受けて、様々な試みが行われてきた。そうした中でも、アート、スポーツ、伝統芸能、音楽、演劇、自然、食、農といったテーマをもとに、一過性ではなく持続的な取り組みがされている事例に着目する。それらの事例において、行政主導の上からの開発ではなく、自然資源・文化資源・人的資源などの地域固有の価値を引き出し、内発的発展が可能となったのはなぜか。年月を経て成熟してきた取り組みの実際とその成果の中に、活力ある地方創生に向けての一般解を検討する。そして、現在討議中の地方創生に向けての政府検討資料から、地域活性化の課題として議論されていること、それに対して、これまでの取り組みの中から指摘できる点を踏まえ、レジャー研究への視点を考察する。